

1 日時 平成14年 6月 6日(木)13:00～15:00

2 場所 岡山市勤労者福祉センター 4階 大会議室

3 出席者 別紙委員名簿を参照(12名出席)

4 傍聴者 8人

5 会議の概要

「健康市民おかやま21」市民アンケート調査の分析結果報告の後に、障害者福祉計画(仮称)策定に向けたアンケート調査の内容について、委員から提言等をいただいた。また、児童クラブについては参考人を迎え、児童クラブが抱えている問題、課題、それに対する解決策などを述べていただき、質疑応答の後、参考人の意見を踏まえて委員に審議していただいた。

6 主要な意見

### 障害者福祉計画(仮称)について

アンケート調査票について、知的障害者用と身体障害者用が同じ調査票になっているが、ニーズ等に随分差があると思うので別々にしてもらいたい。

療育手帳を所持していないお子さんや、療育手帳所持までには至らない方のニーズ把握について、検討してもらいたい。

介護保険制度を利用されている障害者について、介護保険施策と障害者施策とを混同されないように整理して、アンケート調査に臨む必要がある。

知的障害者のアンケート調査について、言葉を補足できるところはもっと言葉を補足していただき。注釈の形とか、やさしい言葉を補足した設問にしていただきたい。

アンケート調査について、こういうところが欲しい、こういうことを望んでいるとか、きめ細かい結果がでるようにしていただきたい。

### 児童クラブについて

私の勤務する児童クラブでは、指導員は基本的には地域の人であることが条件で、地域が支援する運営委員会方式では子供たちの様子がとてもよく見える。

児童クラブが公設民営で運営委員会方式だから、指導員だけでは円満に解決できない問題が生じた場合も、相談でき、いい知恵も借りることができる。

児童クラブの指導員と地域の人との連携、信頼関係の確立こそが子供たちの育成の基盤となる。

児童クラブの子供たちは今日も自分の足で帰ってくる。だから、子供たちが今日も児童クラブに帰りたいと思える毎日にしないと、親も安心して働くことはできない。そういう場所にしていくため指導員が必要である。

指導員は高い専門性を要する仕事であり、そのために研修や学習会、並びに日々の継続した実践を通してその専門性を高める必要がある。

小学校1年のときはやんちゃな子でも、3年生になると弟、妹の面倒を見ることができる。これが、児童クラブのいいところだと思う。

学童保育は縦の関係が育っていく場であり、集団遊び、昔遊びを身につけることができる。その身につけたものを学校、地域へ持ち込み、また持ち帰ることにより、ほかの子供が受けるプラスの影響が大きい。